

■ヒナが巣立ちました！

6月12日水曜日、平成最後の日に生まれたヒナが巣立ちました。

写真の右側が巣立ったヒナ、左側は親鳥です。



「巣立ち」とはヒナが初めて巣の外に足を踏み出すことで、飛翔して地上へ降りるための大切な一歩です。

親鳥はヒナが巣から離れるようにと、巣と距離を置いた位置からエサを与え、ヒナを少しずつ少しずつ巣の外へと導き出します。



このヒナは、ふ化から43日目で巣立ちを迎えることができました。

顔の色は親鳥と同じ赤ではなく黄色です。

産まれた時の体重は62グラムでしたが、飼育員によるとすでに1キロを超えているのではないかとのことです。

性別はというと・・・まだわかっていません。

トキの性別は外見から見分けることは難しく、血液検査をして判別します。

今年産まれたヒナの性別は、秋に佐渡トキ保護センターに移送する前に調べる予定です。

■トキについて学ぼう！

長岡市立大河津小学校では4年生になると総合学習の一環で「環境」について学習しています。

1回目の授業は、長岡市トキ分散飼育センターから飼育員と解説員が学校におじゃまして、トキの生態や歴史などについてお話をさせていただきました。



1月位から春の産卵をする季節にかけて、トキが羽を白から灰色に変えることを説明すると、児童から「保護色！身をを守るため！」と、その答えがすぐに返って来たり質問もたくさん出してくれました。



トキの自然放鳥が始まって11年になります。が、児童は今年10歳。日本の空からトキが姿を消し、自然放鳥に至るまでのことを知りません。



現在国内にはおよそ350羽の野生のトキが生息しています。ここまで増えたのは「佐渡の人たちがトキのエサとなる生き物が生息できる環境を作ったり、農薬を減らした農業をしてきたおかげだ」と伝え、真剣な表情でメモを取っていました。第二回目の授業は6月末に予定しています。